

表紙・目次等

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア通貨危機と金融危機から学ぶ：為替レート ・国際収支・構造改革・国際資本移動・IMF・企業 と銀行の再建方法
発行年	2001
出版者	日本貿易振興会アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00017659

アジア通貨危機のメカニズムを解説し

その原因についてのいろいろな説を検討する

IMFの対応にはどのような問題があったのか

アジア諸国で進みつつある企業や銀行の再建についても考える

国際金融論や金融論の概念を易しく解説し

金融についての入門書としても読んでいただけるだろう

国宗浩二 著

アジア通貨危機と金融危機から学ぶ

為替レート・国際収支・構造改革・国際資本移動・

IMF・企業と銀行の再建方法

アジア経済研究所

国宗浩三 著

アジア通貨危機と金融危機から学ぶ

為替レート・国際収支・構造改革・国際資本移動・

IMF・企業と銀行の再建方法

アジア経済研究所

アジア通貨危機と金融危機から学ぶ

為替レート・国際収支・構造改革・国際資本移動・
IMF・企業と銀行の再建方法

著者紹介

くにむねこうぞう

国宗浩三 1993年 京都大学大学院経済学研究科博士課程修了
アジア経済研究所入所（経済開発分析プロジェクト・チーム）

1998年 総合研究部から開発研究部

現在 開発研究部

- （著書論文）「97/98 アジア経済危機 マクロ不均衡・資本流出・金融危機と対応の問題点」（編：『アジア研トピックレポート』1988年12月）
「東アジアで日本が果たすべき役割は何か」（『経済セミナー』No.521, 日本評論社, 1999年）
「アジア通貨危機：その原因と対応の問題点」（編：アジア経済研究所, 2000年1月）
「金融と企業の再構築：アジアの経験」（編：アジア経済研究所, 2000年12月）
“Crisis in Japan and the Way Out : A Counterargument to Pessimistic Views,” *The Developing Economies*, December 1999, Vol.xxxvii, No.4)

他

アジア通貨危機と金融危機から学ぶ
為替レート・国際収支・構造改革・国際資本
移動・IMF・企業と銀行の再建方法

アジアを見る眼99

2001年3月30日発行©

著者 国宗浩三

発行所 日本貿易振興会 アジア経済研究所
千葉市美浜区若葉3-2-2 〒261-8545
研究支援部 電話 043(299)9735（販売）
FAX 043(299)9736（販売）
E-mail: info@ide.go.jp
http://www.ide.go.jp

印刷所 有限会社メディカピーシー

落丁、乱丁はお取替え致します

無断転載を禁ず

ISBN 4-258-05099-7 C1233

アジア通貨危機と金融危機から学ぶ

為替レート・国際収支・構造改革・国際資本移動・
IMF・企業と銀行の再建方法

国弘浩三 著

アジア通貨危機のメカニズムを解説し
その原因についてのいろいろな説を検討する
IMFの対応にはどのような問題があったのか
アジア諸国で進みつつある企業や銀行の再建についても考える
国際金融論や金融論の概念を易しく解説し
金融についての入門書としても読んでいただけるだろう

アジアを専ら書
99

IDE-JETRO

ISBN4-258-05099-7 C1233

目次

第I章 為替レートと国際収支

アジア通貨危機のメカニズム

はじめに……4

第1節 為替レートの決まり方の基本……11

第2節 外貨の需要・供給と国際収支……17

第3節 キャベツと外貨の違いと通貨危機……24

第4節 通貨危機という現象の説明……26

第5節 アジア通貨危機の原因は何か？……37

第II章 アジア諸国の経済構造が通貨危機の原因か？

第1節 経済成長の限界……42

第2節 国際競争力の低下……51

第3節 仲間内資本主義（クローニーキャピタリズム）……55

第4節 企業統治（コーポレート・ガバナンス）……60

第5節 金融監督……66

第6節 「経済構造が悪かった」だけでは説明できない……70

第III章 国際金融市場の問題

はじめに……74

1 増大する国際金融取引……74

2 市場の失敗……76

3 不確実性と金融市場……77

第1節 通貨危機と国際金融市場……84

1 情報の非対称性という厄介な問題……84

2 群衆行動と通貨危機の伝染…86

3 アジア通貨危機と群衆行動…90

4 通貨投機の理論と複数均衡 (Multiple equilibria)

自己実現的予想 (Self-fulfilling Prophecy) …94

5 複数均衡は、特に対応が困難…97

6 その他の説明…99

第2節 国際金融市場の問題にどう対処するべきか?…102

第3節 国境を越える資金の種類と本章の結論…105

第IV章 IMFの対応は適切だったか?

第1節 IMFとは?…114

1 発足当時(一九七〇年代)金ドル本位制度(ブレトンウッズ体制)

下で、短期的な国際収支問題を支援する機関として機能…114

2 一九八〇年代…途上国援助機関への変質と中南米の累積債務危機…119

3 一九九〇年代…旧ソ連諸国、東欧諸国など移行経済諸国の市場経済

化を支援……121

第2節 IMFへの批判を検討する際の三つのポイント……123

1 マクロ安定化政策(短期的な国際収支の改善策)……124

2 債務問題(仲介者としての役割)……142

3 構造改革……144

第3節 官僚機構の問題とIMF……149

1 官僚機構は仕事を作り出す……150

2 官僚機構に良い仕事をさせるためには……(利益相反の防止)……151

3 官僚機構の自己改革は難しい……152

4 責任の所在が曖昧であるという問題……153

第4節 当面の改革の方向性……155

第V章 金融危機と企業①——倒産処理

はじめに……160

1 通貨危機と金融危機…160

コラム① 複数均衡と通貨危機、金融危機…162

2 金融危機の後遺症は長引きやすい…163

第1節 借り手の動機(インセンティブ)の歪み…168

1 借金の効用と不効用…168

2 対応策…175

第2節 倒産処理…182

1 倒産と破産…182

コラム② インドネシアの新破産法…186

2 倒産処理の社会的意義…187

3 企業を再建するか清算するか判断…189

4 望ましい倒産処理への障害…191

コラム③ 情報の非対称性、利害対立、機会主義的行動、交渉費用…195

5 対応策…199

コラム④ アジア通貨危機後の法制度改革について…201

まとめ…210

第VI章 金融危機と企業②——バランスシート調整

215

第1節 バランスシート調整と代理費用(エージェンシー・コスト)…216

- 1 比較的健全な企業の問題行動…216
 - 2 代理費用…222
 - 3 これまでに出てきた概念との関連…225
 - 4 代理費用と企業の資本構成…227
 - 5 限界的な代理費用と望ましい資本構成…230
 コラム⑤ 代理費用と限界的な代理費用…233
 - 6 企業の価値と企業の資本構成…235
- 第2節 通貨危機による資本構成の変化と資金調達費用の増大…239
- 第3節 さまざまな対策の評価…243
- 1 債権放棄…245
 - 2 増資(による負債の消却)…247

第七章 金融危機と銀行

第1節 銀行の特殊性…266

1 特殊性1…金融仲介と代理監督…267

2 特殊性2…取付け騒ぎ…270

3 特殊性3…外部性…274

4 特殊性4…政府の関与…278

第2節 銀行の倒産処理の難しさ…280

1 難しさ1…再建か清算かの判断…281

3 債務株式交換…249

コラム⑥ タイ・ペトロケミカル社(TPI)の債務整理…252

4 なぜ、債務交渉が可能なのか?…253

5 政府による民間債務交渉の仲介・促進…256

6 間接的な方法…258

まとめ…260

2 難しさ2…迅速性…283

3 難しさ3…銀行救済とモラル・ハザード…284

第3節 具体的な政策の要点…288

1 銀行処理の枠組みについて…288

コラム⑦ 肥大化するインドネシア銀行再建庁の任務と資産…291

2 不良債権処理に関する留意点…294

3 銀行の資本増強に際しての留意点…297

4 モラル・ハザード対策…301

おわりに——強固な金融システムをめざして…309

コラム⑧ 韓国資本市場の混乱…314

索引…324

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここに存在する。これらの新興国はそれぞれの立場に立つて、建国創業の仕事に力を尽くしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的」であるという。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々發展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以てするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立つていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるのであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最も大きな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサーピスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七カ年余り、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはしない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東畑 精 一